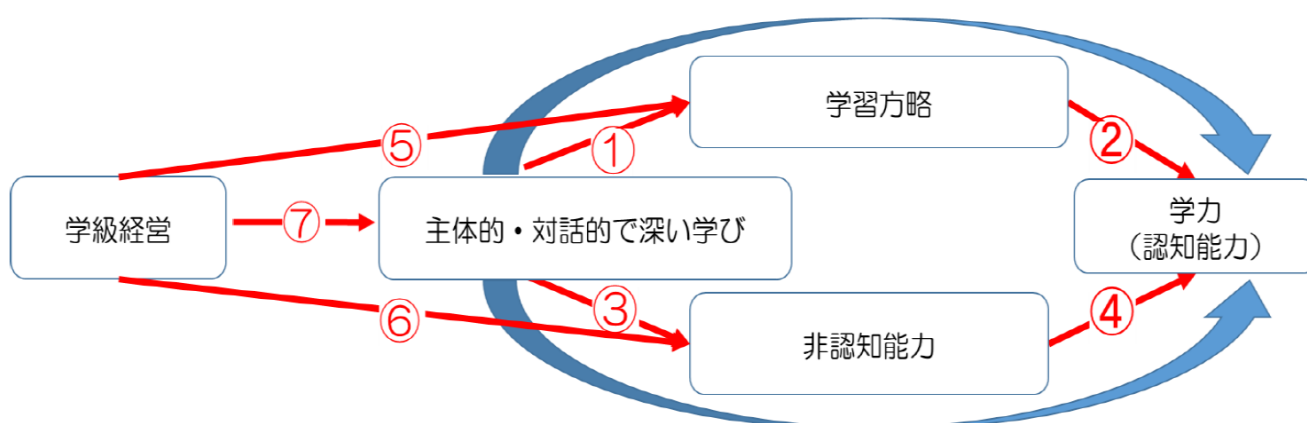


第4章 非認知能力に関する分析について

ふくしま学力調査と同様の調査を、平成27年度から実施している埼玉県教育委員会では、平成27年度から平成30年度に得られた約30万人分の調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である慶應大学のSFC研究所へ委託し、次のようなことが分かってきました。

- 「主体的・対話的で深い学び」は、児童生徒の「非認知能力」の向上や「学習方略」の改善を通して、学力を向上させる可能性がある。(①～④)
- 「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子どもたちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要であり、結果として児童生徒の学力向上につながる可能性がある。(⑤～⑦)



福島県教育委員会では、このような先進的な知見を生かし、非認知能力や学習方略の課題克服を通して、学力の向上に取り組んでいきます。

本章では、**非認知能力**や**学習方略**等について説明します。

非認知能力や学習方略等の調査結果の活用については、99ページで説明している**帳票40**を活用し、一人一人の非認知能力や学習方略等の課題を見だし、その克服を図ることに生かしてください。それが学力向上につながると考えられます。

1 非認知能力について

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では「**自制心**」「**自己効力感**」「**勤勉性**」「**やりぬく力**」の4種類について質問しています。

① 自制心

自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

(例) イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問紙の項目】令和元年度の小学4年生、中学1年生に質問

- ・ 授業で必要なものを忘れた
- ・ 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした
- ・ 何か乱暴なことを言った
- ・ 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- ・ 家や学校で頭にきて人やものにあたった
- ・ 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- ・ きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- ・ イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹を除きます）に口答えをした

② 自己効力感 自分はそれが実行できるという期待や自信

(例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など

【児童生徒質問紙の項目】令和元年度の中学2年生に質問

- ・ 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- ・ 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- ・ 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- ・ 学校でよい成績をとることができると思う
- ・ 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う
- ・ 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力などを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う

③ 勤勉性 やるべきことをきちんとやることができる力

(例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など

【児童生徒質問紙の項目】※福島県は今年度の調査なし(令和元年度の中学3年生に質問)

- ・ うっかりまちがえたりミスをしたりしないように、やるべきことをやります
- ・ ものごとは楽しみながらがんばってやります
- ・ 自分がやるべきことにはきちんと関わります
- ・ 授業中は自分がやっていることに集中します
- ・ 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします
- ・ ルールや順番は守ります
- ・ だれかと約束をしたら、それを守ります
- ・ 自分の部屋や机の周りはこちらかっています
- ・ 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません
- ・ 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- ・ 宿題を終わらせてから、遊びます
- ・ 気が散ってしまうことはあまりありません
- ・ やらないといけないことはきちんとやります

④ やりぬく力

**自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって
成し遂げられる力**

(例) 失敗を乗り越えられる など

【児童生徒質問紙の項目】令和元年度の小学6年生に質問

- ・ 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- ・ 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります
- ・ 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- ・ 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- ・ 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- ・ 何事にもよくがんばるほうです
- ・ いったん目標を決めてから、その後別の目標に変えることがよくあります
- ・ 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- ・ 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- ・ 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- ・ 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- ・ まじめにコツコツとやるタイプです

2 学習方略について

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。ふくしま学力調査では「**柔軟的方略**」「**プランニング方略**」「**作業方略**」「**人的リソース方略**」「**認知的方略**」「**努力調整方略**」の6つに分類しています。

① 柔軟的方略

**自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更
していく活動**

(例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- ・ 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- ・ 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- ・ 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

② プランニング方略 計画的に学習に取り組む活動

(例) 勉強を始める前に計画を立てる など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- ・ 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確認する
- ・ 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- ・ 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

③ 作業方略 ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動

(例) 大切なところを繰り返し書く など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、参考書や辞典などがすぐ使えるように準備しておく
- ・ 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- ・ 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- ・ 勉強で大切なところは、くり返して書くなどして覚える

④ 人的リソース方略 友人を利用して学習を進める活動

(例) 友達に勉強のやり方やわからないところを聞く など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく
- ・ 勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく
- ・ 勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する
- ・ 勉強するときは、最後に友達と答え合わせをするようにする

※ 埼玉県教育委員会の分析結果では、「人的リソース方略」は、児童生徒の学力と負の相関（人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向）が報告されています。

⑤ 認知的方略**より自分の理解度を深めるような学習活動**

(例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
- ・ 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
- ・ 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく
- ・ 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

⑥ 努力調整方略**「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動**

(例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
- ・ 今やっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
- ・ 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単のところだけ勉強する
- ・ 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

3 主体的・対話的で深い学びの実施について

学級における主体的・対話的で深い学びの実施状況を数値化した値

【児童生徒質問紙の項目】※学年により、質問項目が異なります

あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- ・ 問題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと
- ・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと
- ・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと
- ・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合った課題を解決すること
- ・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言われること
- ・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんできたこと

※ 児童生徒質問紙の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値

4 帳票 40 を活用した分析について

帳票 40 には、**非認知能力、学習方略、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの実施）**の児童生徒質問紙の回答状況が示されています。ふくしま学力調査から見られる一つの側面ではありますが、数値が低い項目が課題となっている可能性があります。

例えば、下の表で**やり抜く力（非認知能力）**が低い児童は、国語のレベルは9-Cですが、算数のレベルは6-Bとなっており、**やり抜く力**を高めれば、算数のレベルが上昇する可能性があります。

各学校においては、**帳票 40**を用いて、児童生徒の非認知能力や学習方略等の課題を分析し、その課題を解消するための取組を行ってください。

帳票 40は、各学校に送付したCD-ROMに入っています。

※ 帳票 40 の見方

- ・ 数値の範囲は 5.0～1.0、5.0が最もよい数値
- ・ 数値は児童生徒質問紙でそれぞれ5段階（5～1）の回答を集約したもの

平成31年度ふくしま学力調査(小学校6年生)

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

例 帳票 40

福島県教育委員会

学年	国語	算数・数学	H31 結果									
	H31レベル	H31レベル	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力		
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	やりぬく力
6	9-C	6-B	4.1	3.3	3.3	4.5	3.8	3.8	4.3	-	-	1.8
6	8-C	7-B	2.6	3.0	3.0	2.8	2.8	3.0	3.0	-	-	3.0
6	9-C	6-A	3.3	1.5	1.8	2.8	3.3	2.5	2.8	-	-	3.7

アクティブ・ラーニングの実施の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

柔軟的方略、プランニング方略（学習方略）の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

やりぬく力（非認知能力）の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。